

妄想性パーソナリティ障害の診断基準

A.	他人の動機を悪意のあるものと解釈するといった、広範な不信と疑い深さが成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち4つ（又はそれ以上）によって示される。	
		チェック
	(1) 十分な根拠もないのに、他人が自分を利用する、危害を加える、又はだますという疑いを持つ。	
	(2) 友人又は仲間の誠実さや信頼を不当に扱い、それに心を奪われている。	
	(3) 情報が自分に不利に用いられているという根拠のない恐れのために、他人に秘密を打ち明けたがらない。	
	(4) 悪意のない言葉や出来事の中に、自分をけなす、又は脅かす意味が隠されていると読む。	
	(5) 恨みを抱き続ける。つまり、侮辱されたこと、傷つけられたこと、又は軽蔑されたことを許さない。	
	(6) 自分の性格又は評判に対して他人にはわからないような攻撃を感じ取り、すぐに怒って反応する、又は逆襲する。	
	(7) 配偶者又は性的伴侶の貞節に対して、繰り返し道理に合わない疑念を持つ。	
B.	統合失調症、「気分障害、精神病性の特徴を伴うもの」、又は他の精神病性障害の経過中に起こるものではなく、一般身体疾患の直接的な生理学的作用によるものではない。	

注； 統合失調症の発症前に基準が満たされている場合には、“病前”と付け加える。

例； “妄想性パーソナリティ障害（病前）”

※本文は、「DSM-IV-TR 分類と診断の手引き」（医学書院）を参照しています。